

**立教大学学術推進特別重点資金(立教SFR)**  
**大学院学生研究**  
**2017年度研究成果報告書**

<b>研究科名</b>	立教大学大学院	法学	研究科	法学政治学	専攻		
<b>研究代表者</b> (2018年3月現在のものを記入)	在籍研究科・専攻・学年		氏名				
	法学研究科・法学政治学専攻 博士課程後期課程1年		宮内 悠輔 印				
<b>指導教員</b>	所属・職名		氏名				
	法学部・教授		小川 有美 印				
<b>自然・人文・社会の別</b>	自然	人文	社会	<b>個人・共同の別</b>	個人	共同	名
<b>研究課題</b>	新自由主義改革時代のローカル・リーダーと地域政党 ——ポピュリズムの視点からの考察						
<b>研究組織</b> (研究代表者・共同研究者) ※2018年3月現在のものを記入	在籍研究科・専攻・学年		氏名				
	法学研究科 法学政治学専攻 博士課程後期課程1年		宮内 悠輔				
<b>研究期間</b>	2017 年度						
<b>研究経費</b> (1円単位)	(支出金額) 200,000円 / (採択金額) 200,000円						

**研究の概要** (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究は、既成政党の枠組みにとらわれずに政治アリーナに出現する地域政党の台頭メカニズムを解明しようとした。その際、まず「地域主義」「地域政党」とはいかなる概念であるかを明らかにする必要がある。先行研究を渉猟した結果、地域主義とは地域の利益やアイデンティティを防衛・増大しようとする政治運動であるとの結論に至った。また、頻繁に混同される「地域政党」と「地域主義政党」についても、領域の防衛や地域への利益誘導のために活動拠点の外部へも影響を及ぼそうとする組織であるか否かで区分できる、との示唆を得た。さらに、地域主義とポピュリズムの合流と言うべき現象が世界的に起こっていることも明らかにした。

**キーワード** (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

{ 地域主義 } { ポピュリズム } { 政党システム }

**研究成果の概要** (図・グラフ等は使用しないこと。)

## (1) 本年度の研究内容を着想した経緯

本研究のもともとの問題意識は、既成の全国政党の枠組みに囚われずに活動する地域主義政党が、近年しばしばポピュリストとしての性格を持って政治アリーナに出現する点にある。当初は、特に政党の指導的立場にあるリーダーの役割に注目して研究を進行する計画であった。

研究代表者は、前期課程に引き続き現代ベルギーの急進的地域主義政党を事例として——主に修士論文における研究成果の完成を意図し——分析する計画を立てていた。しかしながら、その研究の途上で複数の研究者や大学院生から「そもそも地域主義政党とはいかなる政治組織なのか」という疑問が寄せられた。この問いは報告者の研究の根本を成すものと考えられる。そのため、まず地域主義や地域主義政党に関する定義を先行研究から調査する必要が生じた。かかる作業が終了した後、改めて事例研究に取り組んだ。

## (2) 研究内容①：学術用語の整理

最初に、地域主義（政党）について先行研究の渉猟により得られた知見を簡潔に整理する。本項で以下に示す研究内容は、学術紀要『立教大学大学院法学研究』第 49 号所収の研究ノート「地域主義・地域（主義）政党・地域ポピュリスト——概念に対する一考察」で公表されている。

地域主義（regionalism）とは、報告者の見解によれば以下の通りである：「国家の下位において一定の領域に位置する集団が、地域の利益やアイデンティティを防衛・擁護ないし増大するために、時に境界線を横断しながら社会的・経済的・文化的な影響力を発揮しようとする政治運動」。つまり、特定の地域における領域の利益を擁護する運動というだけではなく、そのために領域を超えて全国規模（ないしそれ以上）で活動することもありうる。なお、EU や東アジア共同体構想などの超国家的な統合プロジェクトについても地域主義と呼称されることがあるため、注意が必要である。

地域主義と類似した複数の概念や、派生概念との関係についても理解する必要がある。地域主義は社会経済的な運動をも包含するため、ナショナリズムとの完全な同一視は避けなくてはならない。また、必ずしも既存の国家からの脱退を意味するわけではないので、分離主義（separatism）や離脱主義（secessionism）と同義の言葉として扱うことも控えるべきである。ただし、領域性に加えてエスニシティをも運動の要素に含むエスノ地域主義（ethno-regionalism）は、広く学術的に利用され、また現実に観察されている。

地域主義政党（regionalist party）に類似した学術用語として、地域政党（regional party）と地方政党（local party）が存在する。先行研究を確認する限り、地域主義政党とは特定領域な自律性を得るために活動し、そのために従前より大きな権力・能力を地域へもたらそうとする組織のことを言う。地域主義政党と一見同じような意味の用語に見える地域政党については、先行研究で相違が説明されていた。報告者が整理したところでは、地域政党は地理的に活動する範囲が限定されており、掲げている争点もその地域に関係するような内容に絞られている。領域の防衛や地域の利益擁護のために、その外側へも影響を及ぼそうと試みる地域主義政党とは区別されるべきである。ただし、報告者の見立てでは国政に進出しているか否かは基準とならない。地方政党については、通常は全国政党の地方支部を指すものと考えられる。

エスノ地域主義政党（ethno-regionalist party）は、領域的な要求に加えてエスニックな主張もするようになった地域主義政党を指している。当該組織は事例によって目標を異にすることが多く、具体的には地域への文化的・政治的権利を要求する起業家的な政党のような立場に留まるもの、分権や自律の強化を目指すもの、さらに拠点とする地域の独立を目指したり当該地域の他国への編入を目標としたりする急進的なものまで多種多様である。地域主義政党の中でも、活動拠点とする地域の人々に共通のエスニック・アイデンティティが存在し、その意識を有権者の動員に用いる組織をエスノ地域主義政党と呼称できると報告者は結論付けた。

最後に、報告者が博士課程前期課程で提示した概念である「地域ポピュリスト」についても簡潔にまとめた。その内容は次項の研究内容と大幅に内容が重複するため、次項で併せて説明する。

## 研究成果の概要 つづき

## (3) 研究内容②: 地域主義政党のポピュリズム戦略に関する分析

前項の研究内容を踏まえ、報告者は地域主義政党がポピュリズムを戦略として採用する事例を分析した。本項の内容のうち導入的な部分は、前記「地域主義・地域(主義)政党・地域ポピュリスト——概念に対する一考察」第3章で公表された。最終的な分析結果は、2018年6月に開催される日本比較政治学会研究大会における学術報告「地域主義政党のポピュリズム戦略——現代ベルギーを事例として」で公表予定である。

具体的な研究対象はベルギーである。同国ではフランデレン地域とワロニー地域の間で対立が続いている。戦後の対立激化に伴ってベルギーは、分権・連邦化を訴える地域主義政党の台頭や、既成政党の地域ごとの分裂を経験した。その帰結として、20世紀の終わりには中央集権体制から連邦制へ移行している。しかしその後も地域対立は収束の気配を見せず、むしろ90年代以降、フランデレン独立に加え移民排斥も要求する地域主義政党「フラームス・ブロック」(のち「フラームス・ベラング」、以降いずれもVB)が少なからぬ支持を集めた。同党は2000年代まで一定程度の支持を受け続けた。

ところが、2010年の連邦選挙でVBは大きく支持を落とし、代わってそれまで弱小政党であった地域主義政党「新フランデレン同盟」(以降N-VA)が得票数を伸ばし、国政レベルでもっとも議席を獲得した政党となった。同党は2014年連邦選挙でも第一党の位置を守っている。

N-VAとVBは、既成政党よりも強硬な地域主義的主張を行う政党という点で共通する。報告者は、N-VAのポピュリストとしての性質に答えを見出せるのではないかと考えた。しかし、N-VAについてはポピュリストではないと見る先行研究が大半である。N-VAに反エリート主義的な特徴が薄いことが最大の理由となる。欧米を対象とした既存の研究を俯瞰しても、地域におけるポピュリズムの興隆は、反エリートの排外主義ポピュリズムを想定する場合がほとんどであった。具体的な事例としては、VBのほか、イタリアの北部同盟も挙げられやすい。国内外問わず、N-VAはポピュリスト政党であるVBとは異なり、前身となる政党「人民連合」の後継者としての側面を強調されることが多い。

だが報告者はなおも、N-VAとVBはいずれもポピュリスト政党であると推測する。かかる点を証明するため、またN-VAがいかなるポピュリストであるのかを明らかにするためにも、2007年および2010年選挙における両党のマニフェストや、政党綱領の比較を行う。

比較分析の結果は前記の学会報告で初公表となるため、本報告書における記載は差し控える。ただし、研究の公表に向けた作業は順調に進行しており、現時点での進捗状況は地域主義やポピュリズムの研究に対する更なる学術的な貢献を約束できるものである。

**研究発表** (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

① 宮内悠輔, 「地域主義・地域 (主義) 政党・地域ポピュリスト——概念に対する一考察」, 『立教大学大学院法学研究』, 第 49 号, 2018 年, 39-79 頁.

② なし

③ なし

④ 宮内悠輔, 「地域主義政党のポピュリズム戦略——現代ベルギーを事例として」, 日本比較政治学会第 21 回大会報告, 2018 年 6 月 23 日予定 (於東北大学川内南キャンパス).